

2020年10月1日

10月1日からの国境再開に関する政府発表（抜粋）

南アフリカは2020年10月1日から、ビジネスおよびレジャーを目的とする海外からの旅行者の入国受け入れを段階的に再開する。滞在期間中、旅行者にはマスクの常時着用や公共の場でのソーシャルディスタンスの確保、頻繁な手洗いと消毒、旅行出発前72時間以内に取得した新型コロナウイルス陰性証明書の提示などが求められるとともに、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COVID-Alert App）の取得が推奨されている。また訪問に際しては新型コロナウイルスに関連する検査や隔離の費用を補償対象とする旅行保険への加入も必要条件となる。

南アフリカ訪問に際しての注意事項

- 旅行者は南アフリカへの上陸前72時間以内に医療機関でのPCR検査を受けることが求められており、陰性証明書には承認を受けている医療機関名と医師または検査官の署名が必要となる。
- 南アフリカへの入国に際しては感染症状や感染者との接触の有無を確認するためのスクリーニング検査が実施される。
- 感染が疑われる症状が見られたり、感染者との接触が確認された場合には強制的に検査が実施され、その際の費用は自己負担となる。検査で陽性が判明した場合は、指定滞在先での10日間の隔離が求められ、滞在期間中の費用も自己負担となる。
- 南アフリカ到着時に自主隔離が必要な場合には宿泊先の住所や連絡先などが記された滞在証明書の提出が求められる。
- 高リスク国からのレジャー旅行者の入国は認められていないが、南アフリカへの上陸前に10日以上にわたって低リスク国に滞在していたことがパスポートに記録されている場合には、低リスク国からの旅行者として見なされる。
- 中リスク国と低リスク国からの旅行者は、ビザ要件を満たしていることを条件に入国が認められる。
- 長期商用ビザを保有する旅行者についても南アフリカへの渡航は認められるが、入国時にはスクリーニング検査が求められる。
- 空路で南アフリカを訪れる際にはヨハネスブルグのO.R.タンボ国際空港、ケープタウン国際空港、ダーバンのキングシャカ国際空港のみが利用可能となる。
- 近隣諸国との人の往来や物流を円滑に行うため、18地点での陸路国境も再開となる。残る35地点の国境ではスクリーニング検査や隔離を行う体制が十分に整っていないため封鎖措置が継続される。
- 海路国境については貨物船の入港は認められるものの、豪華クルーズなどの客船は入港禁止措置が継続される。

なお10月1日時点で入国が許可されない国・地域はアルバニア、アルゼンチン、アルメニア、オーストリア、バーレーン、ベルギー、ボリビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、クロアチア、チェコ、デンマーク、エクアドル、フランス、ジョージア、グアテ

マラ、ガイアナ、ホンジュラス、ハンガリー、アイスランド、インド、イラン、イラク、アイルランド、イスラエル、ジャマイカ、ヨルダン、クウェート、レバノン、ルクセンブルグ、モルジブ、マルタ、メキシコ、モルドバ、モンテネグロ、ネパール。オランダ、北マケドニア、オマーン、パレスチナ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ポルトガル、プエルトリコ、カタール、ルーマニア、ロシア、スロバキア、スリナム、スイス、ウクライナ、アラブ首長国連邦、英国、米国、ベネズエラ（アルファベット順）となっている。